

埼玉 念願の優勝!

四都県対抗小中学生大会

一チーム五十五人での団体戦、第四回四都県対抗小中学生囲碁大会(主催「日」)今年も大本命と目されて勝を成し遂げた。二勝一敗と勝ち越し、主将を立派に務めた谷川大知くんは「僕は東京戦で負けてしまいましたが他のみんなが力になってくれた。東京に勝てたのは本当にうれしです。チーム全員が協力できたのが勝因です」と笑顔で語る。

ほかに類を見ないほどの大人数でチームを組んでいるため、会場は子どもたちの熱気に溢れる。これまでの三回は東京が層の厚さを見せつけ、三連覇を果した。勢いに乗った埼玉チームは最終戦

で千葉チームを下し、初優勝を成し遂げた。二勝一敗と勝ち越し、主将を立派に務めた谷川大知くんは「僕は東京戦で負けてしまいましたが他のみんなが力になってくれた。東京に勝てたのは本当にうれしです。チーム全員が協力できたのが勝因です」と笑顔で語る。

将としての責任を果たすことができたのでほっとしています。チームが負けてしまったのは残念ですが、仕方ないです。五十五人という大人数なので一人一人の成績がチームの勝敗に与える影響は少ないですが、見えないです」と平野くんはサバサバした表情を見せる。

吐いた。「主将としての責任を果たすことができたのでほっとしています。チームが負けてしまったのは残念ですが、仕方ないです。五十五人という大人数なので一人一人の成績がチームの勝敗に与える影響は少ないですが、見えないです」と平野くんはサバサバした表情を見せる。

今回の覇者は埼玉——。東京の連覇を3で止めた。今回の覇者は埼玉——。東京の連覇を3で止めた。

今回の覇者は埼玉——。東京の連覇を3で止めた。今回の覇者は埼玉——。東京の連覇を3で止めた。

今回の覇者は埼玉——。東京の連覇を3で止めた。今回の覇者は埼玉——。東京の連覇を3で止めた。

今回の覇者は埼玉——。東京の連覇を3で止めた。今回の覇者は埼玉——。東京の連覇を3で止めた。

今回の覇者は埼玉——。東京の連覇を3で止めた。今回の覇者は埼玉——。東京の連覇を3で止めた。

今回の覇者は埼玉——。東京の連覇を3で止めた。今回の覇者は埼玉——。東京の連覇を3で止めた。

吐いた。「主将としての責任を果たすことができたのでほっとしています。チームが負けてしまったのは残念ですが、仕方ないです。五十五人という大人数なので一人一人の成績がチームの勝敗に与える影響は少ないですが、見えないです」と平野くんはサバサバした表情を見せる。



1チーム55名の団体戦は大迫力だ

本大会では各県の実行委員会スタッフが大活躍。埼玉の大澤完治さんは「千葉県と埼玉県の対抗戦が展開し、この大会が生まれました。規模がぐんと大きくなり、苦勞も増えましたが喜びやうれしさもひとしおです」と感慨深そうに語った。

やっぱり立命館強し

立命館大の牙城に大阪大が挑んでいるという構図の関西学生リーグ。高津昌昭さんが卒業しても小揺るぎひとつしない選手層を誇る立命館に対し、阪大はこの秋季リーグで最後の安東翔太さんが抜けると大きな戦力ダウン必至。どうしてもこの秋、立命館を倒さねばならない理由があった。

アルプス江坂囲碁センタ(大阪府吹田市)で、十二月二十七日、二十八日、十二月四日と遅い日程の開催。一日目、二日目と快調に勝ち星を重ねる両校。阪

安東さんにとって西村さん、昨年の春リーグに終局目前の大ボ力で逆転負けを喫し、チームの勝利も逃した因縁の相手。個人では

安東さんにとって西村さん、昨年の春リーグに終局目前の大ボ力で逆転負けを喫し、チームの勝利も逃した因縁の相手。個人では

安東さんにとって西村さん、昨年の春リーグに終局目前の大ボ力で逆転負けを喫し、チームの勝利も逃した因縁の相手。個人では

安東さんにとって西村さん、昨年の春リーグに終局目前の大ボ力で逆転負けを喫し、チームの勝利も逃した因縁の相手。個人では

安東さんにとって西村さん、昨年の春リーグに終局目前の大ボ力で逆転負けを喫し、チームの勝利も逃した因縁の相手。個人では

安東さんにとって西村さん、昨年の春リーグに終局目前の大ボ力で逆転負けを喫し、チームの勝利も逃した因縁の相手。個人では

市民交流は手談で

第一回横手市大仙市交流大会

十二月五日に第一回横手市大仙市交流大会が、横手市雄物川コミュニティセンターで開催された。市対抗戦で、両市から合わせて百二十名が集結。横手市の主催者代表の川俣健二郎さんは「第一回ということで集まりが心配でしたが、予想以上に集まってくれました」と喜びの声を上げた。

結果は十五、一引き分けて横手市が勝利。対局は真剣そのものだったが、一貫して和やかな雰囲気、敗れた大仙市も横手市の勝利を祝福した。

対戦方法は各市から四名ずつの計八名を二ブロックとした市対抗の総当たりのリーグで、全体の勝数の多い市の勝利を取らなければならない」と両市の交流に前向きな様子だった。

仙市市対抗戦は、今年四月に横手市囲碁連盟を設立。学校への囲碁普及を考えており、既に小学校で普及活動をしている大仙市との交流が生まれ、市も隣同士であることから、今大会の開催に至った。

対戦方法は各市から四名ずつの計八名を二ブロックとした市対抗の総当たりのリーグで、全体の勝数の多い市の勝利を取らなければならない」と両市の交流に前向きな様子だった。

対戦方法は各市から四名ずつの計八名を二ブロックとした市対抗の総当たりのリーグで、全体の勝数の多い市の勝利を取らなければならない」と両市の交流に前向きな様子だった。

対戦方法は各市から四名ずつの計八名を二ブロックとした市対抗の総当たりのリーグで、全体の勝数の多い市の勝利を取らなければならない」と両市の交流に前向きな様子だった。

対戦方法は各市から四名ずつの計八名を二ブロックとした市対抗の総当たりのリーグで、全体の勝数の多い市の勝利を取らなければならない」と両市の交流に前向きな様子だった。

対戦方法は各市から四名ずつの計八名を二ブロックとした市対抗の総当たりのリーグで、全体の勝数の多い市の勝利を取らなければならない」と両市の交流に前向きな様子だった。

対戦方法は各市から四名ずつの計八名を二ブロックとした市対抗の総当たりのリーグで、全体の勝数の多い市の勝利を取らなければならない」と両市の交流に前向きな様子だった。

対戦方法は各市から四名ずつの計八名を二ブロックとした市対抗の総当たりのリーグで、全体の勝数の多い市の勝利を取らなければならない」と両市の交流に前向きな様子だった。

四都県対抗戦参加全選手

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 谷川大知、林隆羽、中島光貴、川口飛翔、山本唯明、平翔海、保泉和俊、染谷真真、外館俊哉、塩田瑠美、工藤義也、齋木果穂、本田奏真、山本祥平、曾根原健悟、林朋哉、小池朗人、香取瑞生、本多沙里、内田祐里、工藤郁香、谷川哲将、中島駿、北岡遼太、青柳陽之、中里結利、諸澤壮太、佐藤正太郎、宮内康太郎、南風原佑己、工藤郁、相川萌子、水島直紀、小西涼陣、安斎智、池田晃希、嶋村乃梨子、平岡大河、王欣鴻、加山寛人、小久保俊鷹、西山享佑、藤田鉄之助、郡山久生、米山佳文、高野良典、上田龍嵩、森田雄介、南詠喜、仲野晟矢、金子史和、佐藤宏志、和久津寛人、福田啓太、富澤偉人、大須賀聖良 | 濱優太朗、松本幸佑、高橋光太、崔世駿、米川連、財前孝次郎、茂呂有紗、則友雄輝、勝又佳織、竹内雄啓、崔梨亜、中村倫敦、佐々木海、須藤真一、入江舜、岡田えりか、遠人身延、岡田せいら、菊池京花、栗原賢嶋田空太、末原紘、黒光慎一、中西大樹、宮崎美樹、入江恭輔、堀江慧、齋藤輝、田口立、皆川友哉、池田陽輝、本山真、増田晋之介、岡田泰真、小林大起、杜景辰、安村和紘、井口達哉、竹之内雄斗、遠藤航希、黒光大介、高岡俊典、一俣里園、松村類平、浅野智也、田島悠輔、浅羽翔偉、浅羽礼偉、金沢栄吾、袋布新太郎、大内隆正、小山咲大原あひ | 平野佑騎、天野裕仁、稲垣聡、堀和人、辻華、渡邊勇一郎、辻萌夏、山本太一、大内理那、齊藤正樹、青木咲和香、伊了、上西祐太郎、宮川竜徳、林田威風、齋藤藍杜、柳真裕、依田太陽、野波健太郎、山岡さゆり、奥田俊也、武井太心、大本真帆、大森康裕、徐文俊、加藤雄大、中澤馨、小林敦、巻晴陽太、川上雄也、彦坂多美、重澤龍一郎、信太宏介、加賀屋歩夢、秋山ふぶき、中村水季、松田晋之介、古家直樹、坂野英恵、溝井幸生、五藤真奈、阿部茉莉、小田修貴、田中優彦、森智咲、太田恵吾、横田日菜乃、石山雅子、松本宗一郎、津田真之、菅野靖祐、依田大空、下重開、堀米慧磨、副島彩夏、栗原駿 | 重田一就、前田暖、山岡秋桜、西川宙希、北崎司誠、和田京介、吉本賢司、林義徳、廣瀬理佳子、荒木賢、葵真慎太郎、李博暉、酒井晴太郎、義原千花歩、大塚英人、荒木優、寺岡克起、佐伯耕太、栗田久海、吉成智明、渡辺優作、赤星光、関谷七緒、運野あかね、伴康太郎、大岩瑛介、星光輝、和泉翔吾、遠藤祐理子、重田英就、島津舜、佐伯栄亮、河合源之助、松崎玲央之、遠藤寛志、吉田隆太郎、西田宏幹、山口稜太、山岸光太、明、島田拓馬、石井航、遠藤恭志、荒木道備、片野悠史、辻川純平、太田篤志、山田航平、佐々木優斗、諏訪部貴太、原田凱斗、寺田百恵、諸伏優也、筒井ふみの、山室重弥、野村亮成、矢野弘晃、大塚雅基、八木岳士、河合新之助、植田真悟 |
|--|--|--|---|